

第4章

保存管理

- 1 基本方針
- 2 保存管理の地区区分
- 3 保存管理の方法
- 4 現状変更等の取扱い

第4章 保存管理

1 基本方針

本地域は、11,326.59ヘクタールという広大な面積に、標高1,500メートル付近から3,000メートルを超える地域まで、多様な自然環境、景観から成り立っています。また、平坦部の散策から登山者までさまざまな利用をする来訪者、宿泊施設等の民間事業者、地元町会、文化庁、林野庁、国土交通省、環境省、長野県といった行政機関等、多くの関係者がいます。

このような地域に存在する貴重な文化財の本質的価値を損なわないよう、将来にわたって保存・管理していくための基本方針を以下のように定めます。

○第3章1及び2に示す「本質的価値を構成する諸要素」を保存していくことを基本とします。

第3章3にあげた本地域の諸課題をはじめ、現在の状態が望ましくないと考えられる場合は、課題解決に向けた方策を検討します。

○来訪者の安全確保や既存施設等を保全するための方策を、自然環境や景観に配慮しながら実施します。

○広大な指定地区は地形、植生、景観及び利用状況等が異なることから、一律の基準で保存・管理することが難しいため、指定地を「2 保存管理の地区区分」に示す、山岳地区（第1種地区）、河畔地区（第2種地区）、施設地区（第3種地区）の3地区に区分し、それぞれ「保存・管理の方法」、建築物の改修等を行う場合の基準となる「現状変更等の取扱基準」を定めます。

○本地域の整備・活用を進めていく上での基本的な考え方を示します（第5章参照）。

○関係者により構成された松本市特別名勝及び特別天然記念物上高地保存管理協議会（第6章参照）において、本計画を推進していきます。

2 保存管理の地区区分

地区区分は（１）～（３）の３区分とします。各地区の指定範囲を図２９（又は巻末の地区区分図（拡大版））に示します。

（１）山岳地区（第１種地区）

指定区域の内、河畔地区及び施設地区を除く区域

〔長野県松本市安曇４４６６番地の一部、同４４６８番地の一部、同４４６９番地１の一部、同４４７０番地の一部、同４４７１番地の一部、同４４７２番地の一部〕

（２）河畔地区（第２種地区）

横尾までの梓川河畔の平坦な区域の内、施設地区を除く区域

〔長野県松本市安曇４４６６番地の一部、同４４６８番地の一部、同４４６９番地１の一部、同４４７０番地の一部、同４４７１番地の一部、同４４７２番地の一部〕

（３）施設地区（第３種地区）

中部山岳国立公園の集団施設地区（集団地区）

大正池畔の旅館の既占有地（個別地区）

明神の旅館の既占有地及びその周辺（個別地区）

徳沢地区の環境省所管地（個別地区）

宗教法人穂高神社の所有地（個別地区）

横尾の旅館の既占有地（個別地区）

県道上高地公園線の道路敷及び附帯施設

〔長野県松本市安曇４４６６番地の一部、同４４６８番地の一部、同４４６９番地１の一部、同４４６９番地２、同４４７０番地の一部〕

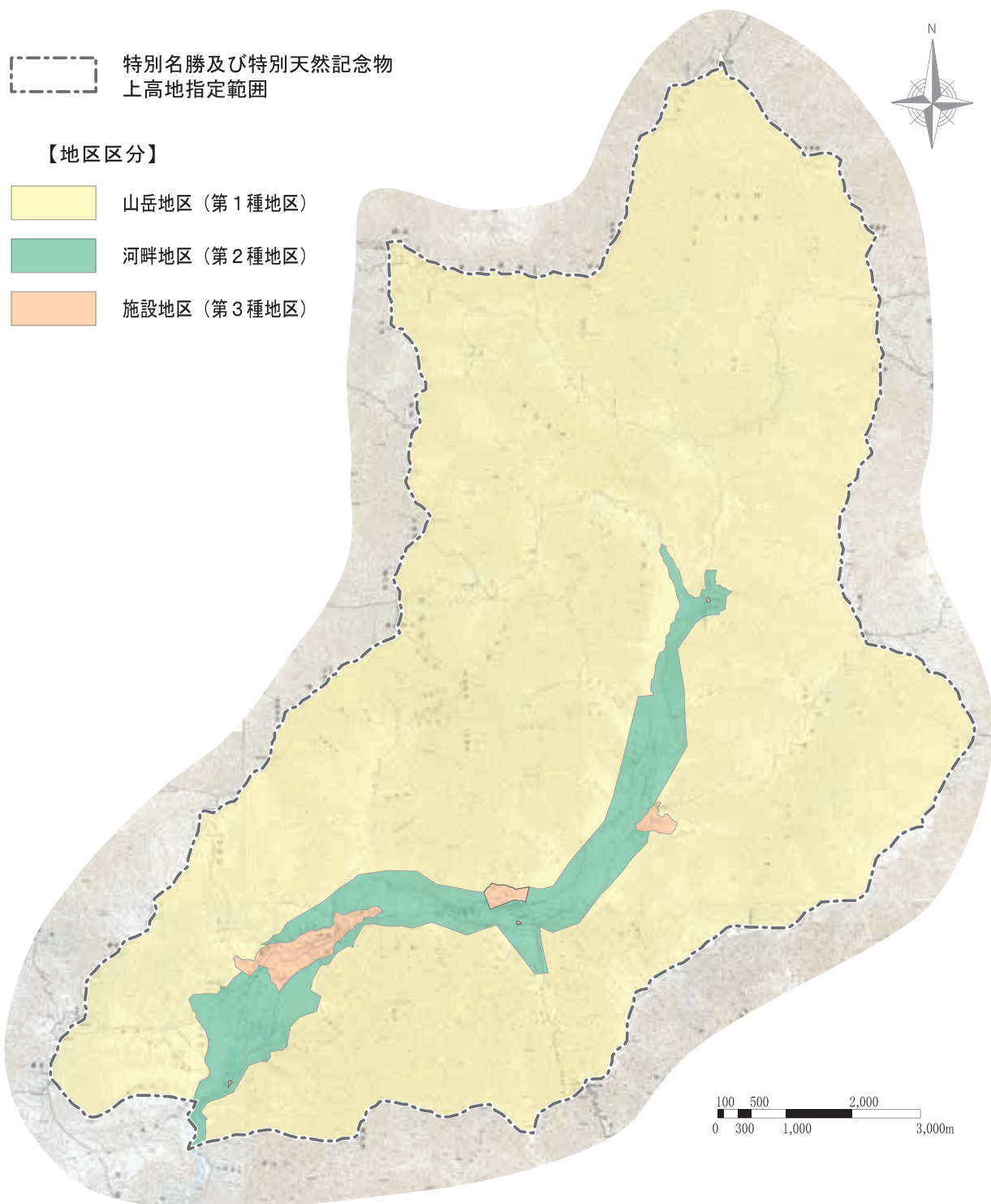


図29 地区区分図

3 保存管理の方法

地区区分ごとに、保存・管理の基本的な考え方を示し、それぞれの構成要素や課題に対する保存管理の方法を以下のように定めます。

(1) 山岳地区（第1種地区）

本地区は、自然の風景に山小屋等の登山関係の施設が調和しながら、日本を代表する山岳景観を形成し、山腹はシラビソやトウヒなどからなる亜高山帯針葉樹林で覆われ、豊かな植生に恵まれた森林景観を形成している地区です。

ア 基本的な考え方

日本を代表する山岳景観を誇り、亜高山帯から高山帯の原生的な自然が残る地域であることから、その景観と多種多様な動植物が生息・生育している環境を維持していくことを基本的な考え方とします。

現状変更については、以下の場合で景観及び環境への影響が軽微なもの以外は認めません。

- (ア) 登山活動、大学等の学術研究に必要な場合
- (イ) 防災上又は安全管理上やむを得ない場合
- (ウ) 施設等の管理運営上やむを得ない場合

イ 本地域を構成する諸要素の保存管理

- ・ 岩石や土壌の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。
- ・ 植物の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。本地域にふさわしい眺望・景観を維持するための伐採については、協議会において検討します。
- ・ 動物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。
- ・ 優れた山岳景観を維持するために、景観を阻害するような要因について厳しく規制します。また、歴史的な構造物等については、保全します。
- ・ 土地の形状変更は、学術研究、施設の維持管理及び公益性のあるものを除き、原則として認めません。
- ・ 改修等に使用する土石は、可能な限り現地の自然材料を用います。
- ・ 山小屋等、建築物の増築・改築及び建て替えは、防災上及び人命の安全確保並びに維持管理上やむを得ない場合とします。
- ・ 登山道等の整備、維持管理にあたっては、新たな切土・盛土等を控え、周辺の景観や自然環境への影響を最小限に抑えた方法とします。
- ・ 工作物の新設は原則として認めません。防災上及び人命の安全確保など公益に資するものの、若しくは、施設の維持管理及び学術研究に必要な施設は協議の上決定します。
- ・ 工作物の改修等は、必要最小限のものとします。

ウ その他の課題

- ・ 外来植物については、協議会において、侵入防止のための対策及び除去対象種の選定、除去方法等について検討を進めます。
- ・ ニホンジカとイノシシについては、今後の侵入状況等を把握し、必要に応じ関係機関と連携し、協議会において対策等について検討します。
- ・ 登山者に環境配慮型山岳トイレの有料化について啓発を行い、携帯トイレの普及等についても協議会において協議します。
- ・ 外国人に向けた多言語対応について、関係者に協力を求めるとともに、登山者に対し、動植物の保護、安全対策の充実等について、啓発や広報を行います。

(2) 河畔地区（第2種地区）

日本を代表する山岳景観を背景に、ケショウヤナギを中心とした河畔林、梓川河畔にある湿地植生や立枯れ木等の池沼の風景が遊歩道や休憩施設等の施設と調和し、文化財として良好な景観を形成している地区です。

ア 基本的な考え方

山岳に囲まれた平坦地を網状に梓川が流れ、氾濫原にはケショウヤナギ等の河畔林が形成されています。周囲の山岳を背景としたこのような景観や自然環境の保全と、来訪者や既存施設等の安全確保の両立が図られた、適切な河川の状態を維持していくことを基本的な考え方とします。

現状変更については、以下の場合で景観及び環境への影響が軽微なもの以外は認めません。

- (7) 自然学習、大学等の学術研究に必要な場合
- (イ) 景観及び環境の保護の視点から必要な場合
- (ウ) 防災上又は安全管理上やむを得ない場合
- (エ) 施設等の管理運営上やむを得ない場合

イ 本地域を構成する諸要素の保存管理

- ・ 岩石や土壌の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。
- ・ 大正池での浚渫は認めます。
- ・ 梓川の河床上昇による施設等への被害防止のための防災工事と、ケショウヤナギの河畔林等の自然環境や景観の保全との両立が図られるように協議会で検討します。
- ・ 梓川本流、支川における、土砂堆積による来訪者の安全確保や景観への問題について、土砂の除去・搬出を含め協議会で対応を検討します。
- ・ 植物の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。本地域にふさわしい眺望・景観を維持するための伐採については、協議会において検討します。
- ・ 動物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。

- ・工作物等は、周囲の景観と調和し、河川景観、平坦部からの山岳景観を阻害しないように管理者を指導します。
- ・土地の形状変更は、必要最小限とします。
- ・改修等に使用する土石は、可能な限り現地の自然材料を用います。
- ・宿泊施設等、建築物の増築・改築及び建て替えは、防災上及び人命の安全確保並びに維持管理上やむを得ない場合とします。
- ・歩道等の整備、維持管理は、周辺の景観になじむものとします。
- ・工作物等の新設は、防災上及び人命の安全確保など公益に資するもの、若しくは、施設の維持管理及び学術研究に必要な施設とします。
- ・工作物の改修等については、周囲の景観と調和するものとします。

ウ その他の課題

- ・外来植物については、協議会において、侵入防止のための対策及び除去対象種の選定、除去方法等について検討を進めます。
- ・ツキノワグマが来訪者等の利用がある場所に出現した場合には、人身に危害が及ばないように、特定鳥獣保護管理計画に基づき適切に対応します。
- ・本地域の魚類相について、協議会において将来の望ましいあり方を検討します。
- ・ニホンジカとイノシシについては、今後の侵入状況等を把握し、必要に応じ関係機関と連携し、協議会において対策等について検討します。
- ・外国人に向けた多言語対応について、関係者に協力を求めるとともに、来訪者に対し、動植物の保護、ごみのポイ捨て禁止、ペットの持ち込み自粛等への啓発や、本地域の自然、歴史等について広報を行います。

(3) 施設地区（第3種地区）

登山、自然学習、レクリエーション、治山・砂防、その他の目的で上高地を活用するために必要な建築物及び工作物等が、山と緑と水が作り出す雄大な自然景観の中で集中する地区です。

ア 基本的な考え方

来訪者の利用の拠点となっており、施設等が集中する地区となっていますが、周囲の山岳景観や河川景観等に配慮した整備が行われています。今後も景観や自然環境と調和した整備を行うことを基本的な考え方とします。また、唯一車両通行が可能な県道上高地公園線の通行の安全性が確保されるように努めます。

現状変更については、以下の場合で景観及び環境への影響が軽微なもの以外は認めません。

- (ア) 自然学習、レクリエーション、大学等の学術研究に必要な場合
- (イ) 景観及び環境の保護の視点から必要な場合
- (ウ) 防災上又は施設等の管理運営上及び利活用上やむを得ない場合

イ 本地域を構成する諸要素の保存管理

- ・ 岩石や土壌の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。
- ・ 梓川の河床上昇による施設等への被害防止のための防災工事と、ケショウヤナギの河畔林等の自然環境や景観の保全との両立が図られるように協議会で検討します。
- ・ 梓川本流、支川における、土砂堆積による来訪者の安全確保や景観への問題について、土砂の除去・搬出を含め協議会で対応を検討します。
- ・ 植物の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。本地域にふさわしい眺望・景観を維持するための伐採については、協議会において検討します。
- ・ 動物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めません。
- ・ 工作物等について、周囲の景観と調和し、河川景観、平坦部からの山岳景観を阻害しないように管理者を指導します。
- ・ 土地の形状変更は、必要最小限とします。
- ・ 改修等に使用する土石は、可能な限り現地の自然材料を用います。
- ・ 宿泊施設等、建築物の増築・改築及び建て替えは、周囲の景観と調和のとれたものとします。
- ・ 県道上高地公園線の改修は、緊急性など必要に応じて協議の上決定します。
- ・ 歩道等の整備、維持管理は、周囲の景観になじむものとします。
- ・ 工作物等の新設は、防災上及び人命の安全確保など公益に資するもの、若しくは、施設の維持管理及び学術研究に必要な施設とします。
- ・ 工作物の改修等については、周囲の景観と調和するものとします。

ウ その他の課題

- ・ 外来植物については、施設周辺の栽培種等が広がらないように所有者等に注意を促すとともに、協議会において侵入防止のための対策及び除去対象種の選定、除去方法等について検討を進めます。
- ・ ツキノワグマが来訪者等の利用がある場所に出現した場合には、人身に危害が及ばないように、特定鳥獣保護管理計画に基づき適切に対応します。
- ・ 野生動物と人間の活動範囲を区別するために、上高地町会等と協力してニホンザルの追払いを継続します。
- ・ 本地域の魚類相について、協議会において将来の望ましいあり方を検討します。
- ・ ニホンジカとイノシシについては、今後の侵入状況等を把握し、必要に応じ関係機関と連携し、協議会において対策等について検討します。
- ・ 外国人に向けた多言語対応について、関係者に協力を求めるとともに、来訪者に対し、動植物の保護、ごみのポイ捨て禁止、ペットの持ち込み自粛等への啓発や、本地域の自然、歴史等について広報を行います。
- ・ 来訪者が快適に散策できるように、わかりやすい案内板、標識の整備を関係機関に依頼していきます。

4 現状変更等の取扱い

本地域内において、その現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化財保護法第125条第1項の規定に基づいて、現状変更等の許可を受ける必要があります。なお、国の機関が行う現状変更等については、文化財保護法第168条によります。

(1) 許可を要しない行為

文化財保護法第125条第1項のただし書きにおいて、「維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りではない。」と規定されています。また、特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請等の申請に関する規則第4条（p.163参照）において、維持の措置の範囲が規定されています。

本地域で想定される許可・同意を要しない行為について、表10に示します。ただし、下記に記載の行為であると考えられる場合も、許可・同意の要否については状況や規模等に応じ文化庁が判断するため、実施に当たっては事前に松本市教育委員会に相談してください。また、下記に記載のない行為は、松本市教育委員会を通じて文化庁に確認します。

表10 許可を要しない行為

1 維持の措置

- 名勝又は天然記念物がき損し、又は衰亡している場合における措置

2 非常災害のために必要な応急措置

- 被害が生じた場合の河川内の堆積土砂及び流木の緊急的な除去
- 車道、管理用道路、歩道及び登山道等に被害が生じた場合の一時的な応急措置（土石の除去、応急工事、ロープ等の設置）

3 通常の実管理行為

- 通常の河川管理としての堆積土砂の除去
（周辺環境への影響が軽微な小規模なもの）
- 車道、管理用道路、歩道及び登山道の通常必要とする管理行為
補修等は原状復旧を原則とする。
（草刈、倒木の除去、通行の支障となる枝の刈払い、危険箇所へのロープ等の設置、ガードロープ等の安全施設の補修、路面の補修、登山道標等の更新及び除去）
- 建物周辺、広場、登山道等で、倒木、落枝により被害を及ぼす恐れがあり、緊急を要する場合の樹木の枝払い等
- 電線等に接触する恐れがある樹木の枝払い

- 工作物等の形状、色彩等の変更を伴わない軽微な修繕
- 毎年定期的に行っているもので、エリア、規模等に変更のない行為（登山者カウンターの設置等）
- 外来植物の除去
- 本地域内に本来いるべきではないニホンジカ等の対策に係る工作物等設置（景観及び自然環境の保存を目的とするもの）
- 人工林の健全育成のための間伐

(2) 現状変更等の取扱基準

現状変更等の許可については、「3 保存管理の方法」を基本に、以下の基準により決定します。なお、本取扱基準に当てはまらないものは文化庁と協議します。

ア 山岳地区（第1種地区）

(ア) 地形地質の調査

- a 地質調査等のボーリング調査は、調査の必要性が明確であり、周辺環境への配慮がなされたもの
- b 岩石土壌の採取は、周辺環境への影響が軽微なもの

(イ) 動植物の保全、管理

- a 動植物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの
- b 木竹の伐採は、通常の森林施業にかかわるもの、施設の維持管理のために必要なもの、安全確保のために必要なもの、眺望・景観の確保のために必要なもの

(ウ) 工作物等

a 工作物等の共通事項

- (a) 土地の形状変更は、学術研究、施設の維持管理及び公益性のあるものを除き、原則として認めません。
- (b) 人工物の修景上やむを得ない場合の植栽は、植生誘導工を施工し、周辺植物の定着を促します。

b 建築物の新築、改築、増築、改修又は除却

- (a) 既占有敷地内での附帯施設の設置を除き、新たな山小屋の新設は認めません。
- (b) 公益に資する建物の新設については、協議の上決定します。
- (c) 屋根の形状は従来からの形式を踏襲するか、又は切妻若しくはこれに類するもの。ただし、それ以外の場合であって、防災上及び人命の安全確保並びに建築物の維持管理上やむを得ない場合は、別途協議します。
- (d) 高さは、既占有敷地内の建築物の最高所の寸法を超えないもの。ただし、防災上及び人命の安全確保並びに建築物の維持管理上やむを得ない場合は、別途協議します。

- (e)壁面等の外装材料は、極力木材又は石材等の自然材料を使用しているもの
- (f)色調については、屋根は赤錆色又はこげ茶色とし、外壁、扉及び窓枠は茶系統色としているもの。ただし、自然材料を用いた場合は素材色でもよい。
- (g)屋根、外壁の色など、これまでに認められたものはこの限りではありません。
- (h)建物の附属物は、「g その他の工作物の新設、増設、改設、改修又は除却」の基準を満たすもの
- (i)山小屋の改築及び増築の規模は、環境省の公園管理計画の基準を満たすもの

c 案内板及び標識等の新設又は改修

- (a)公益に資するものであって、建築物等の管理運営、登山活動及び教育啓発上必要最小限のもの。ただし、碑又は像の類の設置は認めません。
- (b)外観は、目的に応じて統一を図ったもの
- (c)主要材料は、木材又は石材等の自然材料を使用しているもの

d 車道等の改修又は除却

- (a)県道上高地公園線の安全確保は、緊急性等必要に応じ別途協議します。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「f 防災上の施設の新設、増設、改修又は除却」の基準によります。

e 歩道等の新設、改修又は除却

- (a)登山道等の新設、改修に伴う土地の改変は、人工的な整形形状とならないように配慮したもの。ただし、歩行の安全確保のための丸太、くさり、はしご、手すりの使用及び棧道は認めます。
- (b)登山道等の新設、改修は、極力転石等の現地発生材によるもの
- (c)登山道等と一体になった施設の改修は、従前の仕様によるもの
- (d)人が滞留する広場は、周辺景観と調和するものとし、タイル貼り等の人工的な敷設は認めません。
- (e)登山道等の延長、拡幅、迂回は必要最小限とします。
- (f)橋梁の改修は、従前の仕様によるもの。ただし、従前の仕様で対処できない場合は、別途協議します。

f 防災上の施設の新設、増設、改修又は除却

- (a)急傾斜地の保護及び土砂流出防止のための施設は、防災上必要な規模のもの
- (b)堰堤等の工作物の表面仕上げは、自然石積み等によるもので、平滑なコンクリート面を露出させないもの
- (c)河川の流路保全のための施設は、自然石積み又は蛇カゴ等によるもので、安全管理上必要最小限のもの

g その他の工作物の新設、増設、改設、改修又は除却

- (a)工作物は、防災上及び人命の安全確保など公益に資するもの、若しくは、施設の維持管理及び学術研究上必要最小限のもの
- (b)外装材料は、極力木材又は石材等の自然材料を使用し、素材色又は茶系統色のもの。ただし、外装材料に自然材料が使用できない場合については、表面の色調は茶系統色、黒系統色など、周囲の景観と調和した色とします。

イ 河畔地区（第2種地区）

(7) 地形地質の調査

- a 地質調査等のボーリング調査は、調査の必要性が明確であり、周辺環境への配慮がなされたもの
- b 岩石土壌の採取は、周辺環境への影響が軽微なもの

(イ) 河川の堆積土砂の除去

- a 河川の堆積土砂の除去・搬出については、別途協議します。

(ウ) 動植物の保全、管理

- a 動植物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの
- b 木竹の伐採は、通常の森林施業にかかわるもの、施設の維持管理のために必要なもの、安全確保のために必要なもの、眺望・景観の確保のために必要なもの

(I) 工作物等

a 工作物等の共通事項

- (a)土地の形状変更は、必要最小限とします。
- (b)人工物の修景上やむを得ない場合の植栽は、植生誘導工を施工し、周辺植物の定着を促します。

b 建築物の新設、改築、増築、改修又は除却

- (a)既占有敷地内での附帯施設の設置を除き、原則として新たな宿泊施設等、建物の新設は認めません。
- (b)公益に資する建物の新設については、協議の上決定します。
- (c)屋根の形状は従来からの形式を踏襲するか、又は切妻若しくはこれに類するもの。ただし、それ以外の場合であって、防災上及び人命の安全確保並びに建築物の維持管理上やむを得ない場合は、別途協議します。
- (d)高さは、既占有地内の建築物の最高所の寸法を超えないもの。ただし、防災上及び人命の安全確保並びに建築物の維持管理上やむを得ない場合は、別途協議します。
- (e)壁面等の外装材料は、極力木材又は石材等の自然材料を使用しているもの
- (f)色調については、屋根は赤錆色又は茶系統色とし、外壁、扉及び窓枠は茶系統色としているもの。ただし、自然材料を用いた場合は素材色でもよい。
- (g)屋根、外壁の色など、これまでに認められたものはこの限りではありません。
- (h)建物の附属物は、「g その他の工作物の新設、増設、改設、改修又は除却」の基準を満たすもの

c 案内板及び標識等の新設又は改修

- (a)公益に資するものであって、建築物等の管理運営、自然公園・保安林の管理、文化財としての活用及び教育啓発上必要最小限のもの。ただし、碑及び像の類の設置は認めません。
- (b)外観は、目的に応じて統一を図ったもの
- (c)主要材料は、木材又は石材等の自然材料を使用しているもの

d 車道等の改修又は除却

- (a)県道上高地公園線の安全確保は、緊急性等必要に応じ別途協議します。また、県道上高地公園線に係る防災工事が必要な場合は、「f 防災上の施設の新設、増設、改修又は除却」の基準によります。

e 歩道等の新設、改修又は除却

- (a)歩道の新設、改修に伴う土地の改変は、必要な部分に限ります。やむを得ず行う場合は、自然景観になじむもの
- (b)歩道の新設、改修は、極力転石等の現地発生材によるもの
- (c)歩道と一体になった施設の改修は、従前の仕様によるもの
- (d)人が滞留する広場は、原則として舗装を認めません。
- (e)歩道の延長、拡幅、迂回は必要最小限とします。
- (f)橋梁の改修は、従前の仕様によるもの。ただし、従前の仕様で対処できない場合は、別途協議します。

f 防災上の施設の新設、増設、改修又は除却

- (a)急傾斜地の保護及び土砂流出防止のための施設は、防災上必要な規模のもの
- (b)堰堤等の工作物の表面仕上げは、自然石積み等によるもので、平滑なコンクリート面を露出させないもの
- (c)河川の流路保全のための施設は、自然石積み又は蛇カゴ等によるもので、安全管理上必要最小限のもの

g その他の工作物の新設、増設、改設、改修又は除却

- (a)工作物は、防災上及び人命の安全確保など公益に資するもの、若しくは、施設の維持管理及び学術研究上必要最小限のもの
- (b)外装材料は、極力木材又は石材等の自然材料を使用し、素材色又は茶系統色のもの。ただし、外装材料に自然材料が使用できない場合については、表面の色調は茶系統色、黒系統色など、周囲の景観と調和した色とします。

ウ 施設地区（第3種地区）

(フ) 地形地質の調査

- a 地質調査等のボーリング調査は、調査の必要性が明確であり、周辺環境への配慮がなされたもの
- b 岩石土壌の採取は、周辺環境への影響が軽微なもの

(イ) 河川の堆積土砂の除去

- a 河川の堆積土砂の除去・搬出については、別途協議します。

(ウ) 動植物の保全、管理

- a 動植物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの
- b 木竹の伐採は、通常の森林施業にかかわるもの、施設の維持管理のために必要なもの、安全確保のために必要なもの、眺望・景観の確保のために必要なもの

(I) 工作物等

a 工作物等の共通事項

- (a)土地の形状変更は、必要最小限とします。
- (b)人工物の修景上やむを得ない場合の植栽は、植生誘導工を施工し、周辺植物の定着を促す。ただし、中部山岳国立公園の集団施設地区及び徳沢地区の環境省所管地については、可能な限り自生種を用い、周辺の植生と調和しているもの

b 建築物の新築、改築、増築、改修又は除却

- (a)既占有敷地内での附帯施設の設置を除き、原則として新たな宿泊施設等、建物の新設は認めません。
- (b)公益に資する建物の新設については、協議の上決定します。
- (c)屋根の形状は従来からの形式を踏襲するか、又は切妻若しくはこれに類するもの。ただし、それ以外の場合であって、防災上及び人命の安全確保並びに建築物の維持管理上やむを得ない場合は、別途協議します。
- (d)高さは、各地区（集団地区及び個別地区）内にある建築物の最高所の寸法を超えないもの。ただし、中部山岳国立公園上高地地域管理計画の上高地集団施設地区においては、塔屋及び煙突に限り4メートルの範囲内で設置を認めます。
- (e)壁面等の外装材料は、木材又は石材等の自然材料若しくはこれに類する光沢のない材料を使用しているもの
- (f)色調については、屋根は赤錆色又は茶系統色とし、外壁、扉及び窓枠は、茶系統色としているもの。ただし、自然材料を用いた場合は素材色でもよい。
- (g)屋根、外壁の色など、これまでに認められたものはこの限りではありません。
- (h)建物の附属物は、「g その他の工作物の新設、増設、改設、改修又は除却」の基準を満たすもの
- (i)宿泊施設の改築及び増築の規模は、環境省の公園管理計画の基準を満たすもの

c 案内板及び標識等の新設又は改修

- (a)公益に資するものであって、施設地区の管理運営、利活用及び教育啓発上必要最小限のもの
- (b)外観は目的に応じて統一を図ったもの
- (c)主要材料は、木材又は石材等の自然材料を使用しているもの

d 車道等の改修又は除却

- (a)車道及び駐車場の改修は、維持管理上必要最小限のもの
- (b)ガードロープの支柱等、通行の安全上必要な施設等の色調は、茶系統色又は灰色のもの、自然材料は素材色でもよい。
- (c)法面崩落防止のための擁壁表面は、自然石積み等によるもので、平滑なコンクリート面を露出させないもの
- (d)側溝は、原則として自然石組み又は自然化粧材のもの。ただし、駐車場についてはこの限りではありません。
- (e)橋梁の改修は、従前の仕様によるもの。ただし、従前の仕様で対処できない場合は、別途協議します。

(f)県道上高地公園線の安全確保は、緊急性等必要に応じ別途協議します。

e 歩道等の新設、改修又は除却

(a)歩道の新設、改修は、自然景観になじむもの

(b)歩道の新設、改修は、極力転石等の現地発生材によるもの

(c)歩道と一体になった施設の改修は、従前の仕様によるもの

(d)広場の舗装等は、別途協議します。

(e)歩道の延長、拡幅、迂回は必要最小限とします。

(f)橋梁の改修は、従前の仕様によるもの。ただし、従前の仕様で対処できない場合は、別途協議します。

f 防災上の施設の新設、増設、改修又は除却

(a)急傾斜地の保護及び土砂流出防止のための施設は、防災上必要な規模のもの

(b)堰堤等の工作物の表面仕上げは、自然石積み等によるもので、平滑なコンクリート面を露出させないもの

(c)河川の流路保全のための施設は、自然石積み又は蛇カゴ等によるもので、安全管理上必要最小限のもの

g その他の工作物の新設、増設、改設、改修又は除却

(a)施設地区の管理運営上、又は学術研究上必要最小限のもの

(b)外装材料は、極力木材又は石材等の自然材料を使用し、素材色又は茶系統色のもの。ただし、外装材料に自然材料が使用できない場合については、表面の色調は茶系統色、黒系統色など、周囲の景観と調和した色とします。

(3) 松本市教育委員会が許可を行う行為

文化財保護法第125条による現状変更等の許可が必要な行為のうち、文化財保護法施行令第5条（p.160参照）において、「次に掲げる文化庁長官の権限に属する事務は、都道府県の教育委員会が行うこととする。」と規定されています。

また、同条第4項第1号及び文化財保護法施行令第5条第4項第1号イからルまでに掲げる史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可の事務の処理基準（平成12年4月28日文部大臣裁定、平成27年12月21日最終改正）（p.163参照）において、市教育委員会が許可する現状変更行為の範囲が規定されています。

これに基づき、松本市教育委員会が許可を行う現状変更行為の範囲を表11に示します。表11に示す行為であっても、状況等により、必要に応じて文化庁に確認します。

表11 松本市教育委員会が許可を行う行為

イ 小規模建築物（地下のない2階建以下で、建築面積120㎡以下）で設置期間2年以内のものの新築、増築又は改築

ただし、以下の場合は含まない。

- 増築又は改築部分の設置期間が、本体の設置期間2年を超える場合
- 土地の形状変更が、必要最小限度のやむを得ない規模を超える場合
- 木竹の伐採を伴う場合

ロ 本地域は該当しない。

ハ 工作物の設置又は改修（設置の日から50年以内のものに限る。）、掘削等土地の形状変更を伴わない道路の舗装又は修繕

「工作物」には以下のものを含む。

- 小規模建築物に附随する門、生垣、塀
- 県道上高地公園線に設置される電柱、道路標識、ガードレール
- 小規模な観測・測定機器
- 木道

二 （管理団体が行う史跡名勝天然記念物の管理に必要な施設の設置又は改修）

ホ 電柱、電線、ガス管、水管、下水管その他これらに類する工作物の設置又は改修

- 「電線」には、配電管内の電線、電話線等の通信線を含む。
- 「その他のこれらに類する工作物」には、側溝、集水ます、電線共同溝を含む。

ただし、土地の形状変更が、必要最小限度のやむを得ない規模を超える場合は含まない。

ヘ 建築物等の除去（建築又は設置の日から50年以内のものに限る。）

ただし、以下の場合は含まない。

- 土地の形状変更が、必要最小限度のやむを得ない規模を超える場合
- 木竹の伐採を伴う場合

ト 木竹の伐採（危険防止のため必要な伐採に限る。）

チ 史跡名勝天然記念物の保存のため必要な試験材料の採取

本地域の現状を適切に把握するために行われる土壌、植物、鉱物等のサンプル採取をいう。

（リ～ル 省略）

ヲ 「管理のための計画」で定めた区域における現状変更等）

■ 地区別保存管理の方法及び現状変更基準

	1) 山岳地区 (第1種地区)	2) 河畔地区 (第2種地区)	3) 施設地区 (第3種地区)
地区区分	指定区域の内、河畔地区及び施設地区を除く区域 〔長野県松本市安曇 4466 番地の一部、同 4468 番地の一部、同 4469 番地 1 の一部、同 4470 番地の一部、同 4471 番地の一部、同 4472 番地の一部〕	横尾までの梓川河畔の平坦な区域の内、施設地区を除く区域 〔長野県松本市安曇 4466 番地の一部、同 4468 番地の一部、同 4471 番地の一部、同 4472 番地の一部〕	中部山岳国立公園の集団施設地区（集団地区） 大正池畔の旅館の既占有地（個別地区） 明神の旅館の既占有地及びその周辺（個別地区） 徳沢地区の環境省所管地（個別地区） 宗教法人観高神社の所有地（個別地区） 柳尾の旅館の既占有地（個別地区） 県道上高地公園線の道路敷及び附帯施設
地区の概要	自然の風景に山小屋等の登山関係の施設が調和しながら、日本代表する山岳景観を形成し、山腹はシラビソやトウヒなどからなる亜高山帯針葉樹林で覆われ、豊かな植生に恵まれた森林景観を形成している地区	日本を代表する山岳景観を背景に、ケシヨウウヤナギを中心とした河畔林、梓川河畔にある湿地植生や立枯れ木等の池沼の風景が遊歩道や休憩施設等の施設と調和し、文化財として良好な景観を形成している地区	登山、自然学習、レクリエーション、治山・砂防、その他の目的で上高地を活用するために必要な建築物及び工作物等が、山と緑と水が作り出す雄大な自然景観の中で集中する地区
保存管理の方法	<p>日本を代表する山岳景観を誇り、亜高山帯から高山帯の原生的な自然が残る地域であることから、その景観と多種多様な動植物が生息・生育している環境を維持していくことを基本的な考え方とする。</p> <p>現状変更については、以下の場合で景観及び環境への影響が軽微なもの以外は認めない。</p> <p>(ア) 登山活動、大学等の学術研究に必要な場合</p> <p>(イ) 防災上又は安全管理上やむを得ない場合</p> <p>(ウ) 施設等の管理運営上やむを得ない場合</p>	<p>山岳に囲まれた平坦地を網状に梓川が流れ、氾濫原にはケシヨウウヤナギ等の河畔林が形成されている。周囲の山岳を背景としたこのような景観や自然環境の保全と、来訪者や既存施設等の安全確保の両立が図られた、適切な河川の状態を維持していくことを基本的な考え方とする。</p> <p>現状変更については、以下の場合で景観及び環境への影響が軽微なもの以外は認めない。</p> <p>(ア) 自然学習、大学等の学術研究に必要な場合</p> <p>(イ) 景観及び環境の保護の観点から必要な場合</p> <p>(ウ) 防災上又は安全管理上やむを得ない場合</p> <p>(エ) 施設等の管理運営上やむを得ない場合</p>	<p>来訪者の利用の拠点であり、施設等が集中する地区となっているが、周囲の山岳景観や河川景観等に配慮した整備が行われている。今後も景観や自然環境と調和した整備を行うことを基本的な考え方とする。また、唯一車両通行が可能な県道上高地公園線の通行の安全性が確保されるように努める。</p> <p>現状変更については、以下の場合で景観及び環境への影響が軽微なもの以外は認めない。</p> <p>(ア) 自然学習、レクリエーション、大学等の学術研究に必要な場合</p> <p>(イ) 景観及び環境の保護の観点から必要な場合</p> <p>(ウ) 防災上又は施設等の管理運営上及び利活用上やむを得ない場合</p>

※本取扱基準に当てはまらないものは文化庁と協議する。

1 地形地質の調査	・ 岩石や土壌の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めない。	同 左	同 左
現状変更基準	現状変更基準		現状変更基準
a 地質調査等のボーリング調査は、調査の必要性が明確であり、周辺環境への配慮がなされたもの		同 左	同 左
b 岩石土壌の採取は、周辺環境への影響が軽微なもの		同 左	同 左

		1) 山岳地区 (第1種地区)	2) 河畔地区 (第2種地区)	3) 施設地区 (第3種地区)
保存管理の方法及び現状変更等の取扱基準	2 河川の堆積土砂の除去		<ul style="list-style-type: none"> ・大正池での浚渫は認める。 ・梓川の河床上昇による施設等への被害防止のための防災工事と、ケシヨウヤナギの河畔林等の自然環境や景観の保全との両立が図られるように協議会で検討する。 	同 左
			<ul style="list-style-type: none"> ・梓川本流、支川における、土砂堆積による来訪者の安全確保や景観への問題について、土砂の除去・搬出を含め協議会で対応を検討する。 	同 左
			現状変更基準	現状変更基準
	3 動植物の保全、管理		河川の堆積土砂の除去・搬出については、別途協議する。	同 左
		<ul style="list-style-type: none"> ・植物の採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めない。 	同 左	同 左
		<ul style="list-style-type: none"> ・本地域にふさわしい眺望・景観を維持するための伐採については、協議会において検討する。 	同 左	同 左
		<ul style="list-style-type: none"> ・動物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの以外は認めない。 	同 左	同 左
		現状変更基準	現状変更基準	現状変更基準
		<ul style="list-style-type: none"> a 動植物の捕獲・採取は、学術研究その他公益性があり、かつ、周辺環境への影響が軽微なもの 	同 左	同 左
		<ul style="list-style-type: none"> b 木竹の伐採は、通常の森林施業にかかわるもの、施設の維持管理のために必要なもの、安全確保のために必要なもの、眺望・景観の確保に必要なもの 	同 左	同 左
4 工作物等				
(1) 共通事項				
	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた山岳景観を維持するために、景観を阻害するような要因について厳しく規制する。また、歴史的な構造物等については、保全する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工作物等は、周囲の景観と調和し、河川景観、平坦部からの山岳景観を阻害しないように管理者を指導する。 	同 左	同 左
	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形状変更は、学術研究、施設の維持管理及び公益性のあるものを除き、原則として認めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の形状変更は、必要最小限とする。 	同 左	同 左
	<ul style="list-style-type: none"> ・改修等に使用する土石は、可能な限り現地の自然材料を用いる。 	同 左	同 左	同 左
	現状変更基準	現状変更基準	現状変更基準	現状変更基準
	<ul style="list-style-type: none"> a 土地の形状変更は、学術研究、施設の維持管理及び公益性のあるものを除き、原則として認めない。 	<ul style="list-style-type: none"> a 土地の形状変更は、必要最小限とする。 	同 左	同 左
	<ul style="list-style-type: none"> b 人工物の修景上やむを得ない場合の植栽は、植生誘導工を施工し、周辺植物の定着を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 同 左 	同 左	<ul style="list-style-type: none"> b 人工物の修景上やむを得ない場合の植栽は、植生誘導工を施工し、周辺植物の定着を促す。ただし、中部山岳国立公園の集団施設地区及び徳沢地区の環境省所管地については、可能な限り自生種を用い、周辺の植生と調和しているもの

(2) 建築物の新設、改築、増築、改修又は除却	・ 山小屋等、建築物の増築・改築及び建て替へは、防災上及び人命の安全確保並びに維持管理上やむを得ない場合とする。	・ 宿泊施設等、建築物の増築・改築及び建て替へは、防災上及び人命の安全確保並びに維持管理上やむを得ない場合とする。	・ 宿泊施設等、建築物の増築・改築及び建て替へは、周辺の環境と調和のとれたもの
	現状変更基準	現状変更基準	現状変更基準
(3) 案内板及び標識等の新設、改修又は除却	a 既占有敷地内での附帯施設の設置を除き、新たな山小屋の新設は認めない。	a 既占有敷地内での附帯施設の設置を除き、原則として新たな宿泊施設等、建物の新設は認めない。	同 左
	b 公益に資する建物の新設については、協議の上決定する。	同 左	同 左
	c 屋根の形状は従来からの形式を踏襲するか、又は切妻若しくはこれに類するもの。ただし、それ以外の場合であって、防災上及び人命の安全確保並びに建築物の維持管理上やむを得ない場合は、別途協議する。	同 左	同 左
	d 高さは、既占有敷地内の建築物の最高所の寸法を超えないもの。ただし、防災上及び人命の安全確保並びに建築物の維持管理上やむを得ない場合は、別途協議する。	同 左	d 高さは、各地区（集団地区及び個別地区）内にある建築物の最高所の寸法を超えないもの。ただし、中部山岳国立公園上高地成管理計画の上高地集団施設地区においては、塔屋及び煙突に限り4 mの範囲内で設置を認める。
	e 壁面等の外装材料は、極力木材又は石材等の自然材料を使用しているもの	同 左	e 壁面等の外装材料は、木材又は石材等の自然材料若しくはこれに類する光沢のない材料を使用しているもの
	f 色調については、屋根は赤錆色又はこげ茶色とし、外壁、扉及び窓枠は茶系統色としているもの。ただし、自然材料を用いた場合は素材色でもよい。	f 色調については、屋根は赤錆色又は茶系統色とし、外壁、扉及び窓枠は茶系統色としているもの。ただし、自然材料を用いた場合は素材色でもよい。	同 左
	g 屋根、外壁の色など、これまでに認められたものはこの限りではない。	同 左	同 左
	h 建物の附属物は、「(7) その他の工作物の新設、増設、改設、改修又は除却」の基準を満たすもの	同 左	同 左
	i 山小屋の改築及び増築の規模は、環境省の公園管理計画の基準を満たすもの		i 宿泊施設の改築及び増築の規模は、環境省の公園管理計画の基準を満たすもの
	現状変更基準	現状変更基準	現状変更基準
	a 公益に資するものであって、建築物等の管理運営、登山活動及び教育啓発上必要最小限のもの。ただし、碑又は像の類の設置は認めない。	a 公益に資するものであって、建築物等の管理運営、自然公園・保安林の管理、文化財としての活用及び教育啓発上必要最小限のもの。ただし、碑及び像の類の設置は認めない。	a 公益に資するものであって、施設地区の管理運営、利活用及び教育啓発上必要最小限のもの
(4) 車道等の改修又は除却	b 外観は、目的に応じて統一を図ったもの	同 左	同 左
	c 主要材料は木材又は石材等の自然材料を使用しているもの	同 左	同 左
	現状変更基準	現状変更基準	現状変更基準
	a 車道及び駐車場の改修は、維持管理上必要最小限のもの		a 車道及び駐車場の改修は、維持管理上必要最小限のもの
			b ガードロープの支柱等、通行の安全上必要な施設等の色調は、茶系統色又は灰色のもの、自然材料は素材色でもよい。
			c 法面前落防止のための擁壁表面は、自然石積み等によるもので、平滑なコンクリート面を露出させないもの
(5) 歩道等の改修又は除却			d 側溝は、原則として自然石積み又は自然化粧材のもの。ただし、駐車場についてはこの限りでない。
			e 橋梁の改修は、従前の仕様によるもの。ただし、従前の仕様で対応できない場合は、別途協議する。
	現状変更基準	現状変更基準	現状変更基準

保存管理の方法及び現状変更等の取扱基準			1) 山岳地区 (第1種地区)	2) 河畔地区 (第2種地区)	3) 施設地区 (第3種地区)
(5) 歩道等の新設、改修又は除却	<p>a 県道上高地公園線の安全確保は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>・ 歩道等の整備、維持管理は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>・ 歩道等の整備、維持管理は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>・ 歩道等の整備、維持管理は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>f 県道上高地公園線の安全確保は、緊急性等必要に応じ別途協議する。</p>
(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除却	<p>・ 登山道等の整備、維持管理にあたっては、新たな切土・盛土等を控え、周囲の景観や自然環境への影響を最小限に抑えた方法とする。</p>	<p>・ 登山道等の整備、維持管理は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>・ 登山道等の整備、維持管理は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>・ 歩道等の整備、維持管理は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>f 県道上高地公園線の安全確保は、緊急性等必要に応じ別途協議する。</p>
(7) その他の工作物の新設、増設、改修又は除却	<p>・ 工作物の新設は原則として認めない。防災上及び人命の安全確保など公益に資するもの。若しくは、施設の維持管理及び学術研究に必要なものは協議の上決定する。</p>	<p>・ 工作物の新設は原則として認めない。防災上及び人命の安全確保など公益に資するもの。若しくは、施設の維持管理及び学術研究に必要なものは協議の上決定する。</p>	<p>・ 工作物の新設は原則として認めない。防災上及び人命の安全確保など公益に資するもの。若しくは、施設の維持管理及び学術研究に必要なものは協議の上決定する。</p>	<p>・ 歩道等の整備、維持管理は、緊急性等必要に応じ別途協議する。また、県道上高地公園線に係る防災工事等が必要な場合は、「(6) 防災上の施設の新設、増設、改修又は除去」の基準による。</p>	<p>f 県道上高地公園線の安全確保は、緊急性等必要に応じ別途協議する。</p>